

みんなが笑顔で、
安心できる「まち、暮らし」

あんしん



- 1 安心して子育てができるよう世代をこえてつなげる場づくりを実現する
- 2 誰もが働きやすい社会づくりを推進する
- 3 世界平和を願う運動体として進む

コミュニティの場としての新しい宅配の拠点づくりを進めました

行政や地域、店舗、宅配、地区本部などが連携し、コミュニティ機能を持つ新たな拠点づくりを進めました。

9月には加古川市のシルバー人材センターと協働し、コープ神吉の「めーむひろば」の商品受け渡し業務を有償ボランティアへ委託する取り組みが始まりました。今後は、「めーむひろば」を中心にしながら、さまざまなコミュニティの場となるモデル化を進めていきます。

1月には、神河町で障がい者の生活支援や就労支援などを行う「多機能型事業所 ひと花」との協働が始まりました。コープこうべが宅配商品をひと花に配達し、ひと花の利用者が、買い物に困難な高齢の組合員宅に見守りを兼ねて商品をお届けしています。訪問先の組合員は独居の方も多く、ケアマネジャーやヘルパー、地域の民生委員などにも協力いただいています。組合員から訪問の際に「ありがとう」の声をかけてもらうなど、利用者のやりがいにもつながる取り組みとなっています。



「ひと花」利用者による商品お届けの様子



「ひと花」利用者による商品の仕分け



コープ神吉「めーむひろば」商品受け渡し



コープ神吉「めーむひろば」商品の仕分け

「絵本」を通じて平和の取り組みを進めました

4月から5月にかけて、「絵本」を通じて、子どもたちに平和の大切さを感じて明るい未来につなげてほしいという願いを込め、おすすめ絵本の紹介コメントを公募しました。553人から692通のコメントが集まり、497作品が推薦絵本に。推薦絵本の中から、合計800冊を地域の団体や施設に寄贈しました。

また、3月26日(土)には、楠公会館で絵本講演会「絵本で子どもたちにつたえたいこと」を開催。絵本作家の長谷川義史さんが絵本の読み聞かせやウクレレでの弾き語りなど、「平和」へのメッセージをわかりやすく伝えました。いずれも「平和のカンパ」を活用しました。



夕食サポート「まいくる」の利用食数が過去最高となりました

利用食数が過去最高の9400食となりました。季節や旬を感じられる新メニューを取り入れたことにより、利用の定着が進みました。将来的な需要の高まりを見据え、利用の広がりや食数の伸長に対応が可能な配送体制の整備、システム改修などの検討を進めました。

また、コープこうべ100周年・まいくる10周年を記念して、まいくる総選挙やまいくる通信などの参加型企画を実施し、利用者に近い関係づくりを進めました。



おかず盛りコースの一例

「ハート基金 (コープこうべ災害緊急支援基金)」から拠出を行いました

7月に静岡県熱海市で発生した土石流災害の復旧支援として、静岡県社会福祉協議会、静岡県ボランティア協会に併せて50万円を拠出しました。

また、8月に発生した九州北部の大雨災害の復旧支援として、佐賀県社会福祉協議会(佐賀県民災害ボランティアセンター)に50万円を拠出しました。



熱海土石流災害の復旧支援のようす(静岡県社協より提供)

「あんしん宅配」の実現に向けた取り組みを進めました

4月より、事故につながりやすい行動を検知する機能を搭載した新たなドライブレコーダーを宅配事業の全車両に導入しました。これにより、即時の状況確認やタイムリーな指導が可能となるなど、交通事故を未然に防止する取り組みを進めています。

また、安全運転研修を開催し、事故事例を踏まえた、安全確認手順とその重要性の共有化を行いました。



安全運転研修のようす

世代や地域を問わず交流できる場を「コープこうべアプリ」に開設しました

4月に、子育て世代の交流ができるオンラインコミュニティのサイトを設置。子育ての悩みや日常の困りごとなどを中心に約200人が参加し、投稿数はのべ1200件以上となりました。アプリを通じた組合員同士のつながりが広がりました。



アプリ上で気軽に情報交換

消費者トラブル防止学習会を実施しました

2月11日(金)にNPO法人C・キッズ・ネットワーク理事長の大森節子さんを講師に迎え、「18歳はもうおとな～被害者にも加害者にもならないために～」をテーマに、オンラインセミナーを開催しました。

2022年4月から20歳から18歳に成年年齢が引き下げられるのを受け、こういったことが起こるのか、トラブルの内容と注意点を具体的に解説。最後に被害にあってもあきらめずに「消費生活センター」へ相談するようにアドバイスをされました。



講師の大森節子さん

近隣事業者と連携しながら利用者拡大に取り組んでいます

福祉事業では、新型コロナウイルスの感染症対策を継続して実施しながら、利用者の自立支援・重度化防止を目的とするコープこうべの基本ケアの浸透に向けて、定例会議などで介護技術研修を取り入れた実践と振り返りを行いました。

また、地域包括ケアシステムの観点から近隣の医療機関や他事業所と連携をすることで、利用者のくらしの安心を支える取り組みが進みました。



会話をしながら利用者の健康チェック

「どんぐりっこ すみよし」が開園しました

4月に、コープこうべでは2つ目となる認可保育園「どんぐりっこ すみよし」を開園しました。

園内で調理した給食を通して食育を行うなど、子どもたちがのびのびと安心できる環境づくりを進めています。



入園式の様子

就労・自立支援をサポート

障がいがあったり、社会参加しづらかったりする人たちの就労・自立支援の取り組みをNPO法人と連携して進めています。コープ宝塚(宝塚市)や大阪北地区内の店舗・宅配業務の一部を社会参加の機会として活用いただいています。さらに、宝塚市のコロナ濃厚接触者に対する自宅待機要請に伴う生活支援物資の提供を請け負っており、配送作業の一部であるピッキングを生きづらさを抱える若者たちの就労体験の場として提供しています。



就労体験のピッキング作業の様子

平和学習会を開催しました

1月、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)会長兼国際運営委員の川崎哲^{あきら}さんを迎え、核兵器の開発、製造、保有、使用を禁じる初の「核兵器禁止条約」発効から1年を経た現状や課題について学習会を開催しました。「人間の生存を脅かす脅威のうち、核だけが人為的なもの、きつと対処できるはず」と訴えました。



講師の川崎哲さん

また、芦屋市在住の高校生が集まって活動している「あしや部」が、「平和」についてさまざまな視点から学習会を企画・開催。第1回目は、戦争体験者の話を聞きました。学習会は3回開催され、若い世代が「平和」を考える機会になりました。

組合員ニーズに対応したサービスの開発・見直しを進めました

クレリ案内センターでは、要望の多い小規模な家族葬プランをクレリ葬として導入するための検討・協議を進めました。

2022年4月から導入する新しい家族葬プランの開発と合わせてパンフレットやホームページの修正、葬祭ガイドブックの作成など準備を進めました。



クレリ案内センターホームページ

兵庫県ユニセフ協会が20周年のイベントを実施しました

兵庫県ユニセフ協会(2002年設立)では、設立20周年を迎え、2月にはフォトジャーナリストの安田菜津紀^{あずき}さんを迎え記念講演会を開催しました。また3月には第20回「ユニセフのつどい」を開催し、20年を振り返る動画上映や浜田進士^{あきら}さん(子どもの権利条約総合研究所関西事務所長他)の講演会を開催。「子どもの権利の主体は子どもであり、子どもに聴くことが一番」との呼びかけがありました。またユニーズ(学生ボランティア)のOBと現役高校生が進行を務める中、ミュージシャンの大西匡哉^{まさや}さんによるケニア伝統太鼓「ンゴマ」の演奏で大いに盛り上がるなど、次世代へつなげる感謝の一日となりました。



第20回「ユニセフのつどい」